

令和 2 年度 校内研修計画

1 研究主題

自ら考え、学び、共に高め合う

コミュニケーション力をもつ子の育成

～関わり合いの中で、価値理解、人間理解、他者理解を深める授業づくりを通して～

2 研究主題について

平成 25 年度、26 年度の 2 年間にわたり、「地域のヒト・モノ・コトを生かした学びの創造」の研究主題のもと、岩国小学校校区における伝統・文化との関わりを大切にしながら魅力ある教材の開発に取り組んできた。その結果、学年間での内容の系統性が明確になり、児童の興味・関心を高める授業展開が可能になっただけでなく、だれでも授業ができるように各学年の指導案や資料をファイル化することができた。この 4 年間は授業の在り方を深めると共に、伝統文化について学び、児童の郷土愛を高めることにも力を注いできたといえる。

平成 27 年度からは、「自ら考え、学び合い、豊かに表現できる児童の育成」という研究主題を掲げ、再度原点に立ち返り児童の学力向上を目指した校内研修を展開した。さらに、平成 29 年度には、岩国市確かな学力推進研究事業の指定を受け、深い学びにつながる、魅力ある教材提示やめあての工夫、ふりかえりの重視、交流の場の工夫などの視点から国語科算数科を中心に授業改善に取り組んだ。探求的なめあての設定や話し合い活動の充実、及び振り返りの時間を確実に確保することで児童の学ぶ意欲が少しずつ高まってきている。平成 30 年度は、同じテーマで実践を積んできた。

平成 30 年度末に、岩国中学校校区で「コミュニケーション力」が課題であることが分かったため、令和元年度は、これまでの研究主題に加え、コミュニケーション力を高めるための授業づくりに取り組んだ。

令和 2 年度は、山口県の「やまぐちっ子の心を育む道德教育プロジェクト」の指定を受け、「特別な教科 道德」の授業を中心に、児童の心を育みながらコミュニケーション力を高めていきたい。

3 主題設定の理由

(1) 社会的な背景から

児童を取り巻く社会状況は加速度的に変化し続けている。成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また、急速に変化しており、予測困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人ひとりが持続可能な社会の担い手として、多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。こうした社会の変化として、人工知能 (AI) の飛躍的な進化を挙げることができる。人工知能が自ら知識概念を理解し、思考し始めると言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかとの予測も示されるが、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるという再認識につながっている。このような時代の中で、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構成することができるようにすることが求められている。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、人と人とのつながりの大切さや、人を責めるのではなく、相手を思いやるなどの人権意識の大切さを改めて再認識する必要がある。そこで、指示を待って行動するのではなく、すすんでコミュニケーションをとり、他者と共に考える中で様々な情報を取捨選択し、正しい判断をし、自ら行動できるようになり、自分の行動や言動が周りにどのような影響を与えるのかを考える力が必要となる。

(2) 学校の教育目標から

本校では、「豊かな心を持ち たくましく生き抜く 岩国小児童の育成」を教育目標としている。またそれを目指す児童像に「意志の強い子」「和を大切にする子」「工夫して取り組む子」「忍耐強くしなやかな子」を掲げている。互いに学び合う中で、支え合い、認め合う関係をつくりながら、自ら進んで考え、伝え合い、表現する岩国小児童の育成を目指すことによって、学校の教育目標を具現化できるものとする。

(3) 本校の実態から

本校校区は岩国市の中心に位置し、吉川藩の城下町として発展してきた町である。校区には錦帯橋をはじめとする文化財や多くの歴史的建造物が存在している。地域性を生かした伝統・文化教育により、自分の住む町のすばらしさを学び、学習したことを家族や地域の人々に伝えたいという思いをもっている。児童は、明るくのびのびと生活しており、様々なことに興味をもって学習に取り組んでいる。

2018年度から始まった「特別の教科 道徳」の授業では、教科書とノートを使って、「考え議論する道徳」の授業をめざして授業改善に取り組んでいる。児童は、一つ一つの教材について一生懸命考え、自分の思いや学んだことを、ノートに書いたり話し合ったり発表したりしている。しかし、自分の考えをもとうとしているが、友だちの意見を聞いて、多面的多角的に考えることに課題がある。

休み時間等には、友だちと積極的に関わろうとする児童がいる一方で、人から話しかけられないと自分から関わらない児童もいる。また、自分の思いばかりを押しつけてしまい、相手の思いや状況を考えずにトラブルになってしまうこともある。困ったときに自分から助けを求めたり、トラブルになる前に、相手の思いを考えたりできるようになれば、よりよい人間関係を築くことができるということを、児童自身が気づけるようになってほしい。

4 研究の仮説

道徳の授業の中で、考える必然性や切実感のある発問や、自己の生き方について考えることのできる発問をすれば、児童一人ひとりが考えたり友だちと話し合ったりすることができ、価値理解や人間理解、他者理解を深め、コミュニケーション力を高めることができるようになるのではないかと考えている。

5 研究の視点

視点1	考える必然性や切実感のある発問の在り方
視点2	物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方
視点3	自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方

6 研究の内容

(1) 学習指導要領のより深い理解と児童の実態把握

- ・学習指導要領のキーワードの深い理解
- ・児童の学習の様子の見取り
- ・アンケートによる児童の実態把握

(2) 「考え、議論する道徳」の授業づくり

- ・発問の工夫（考える必然性や切実感のある発問・自己の生き方について考えることのできる発問など）
- ・評価の工夫

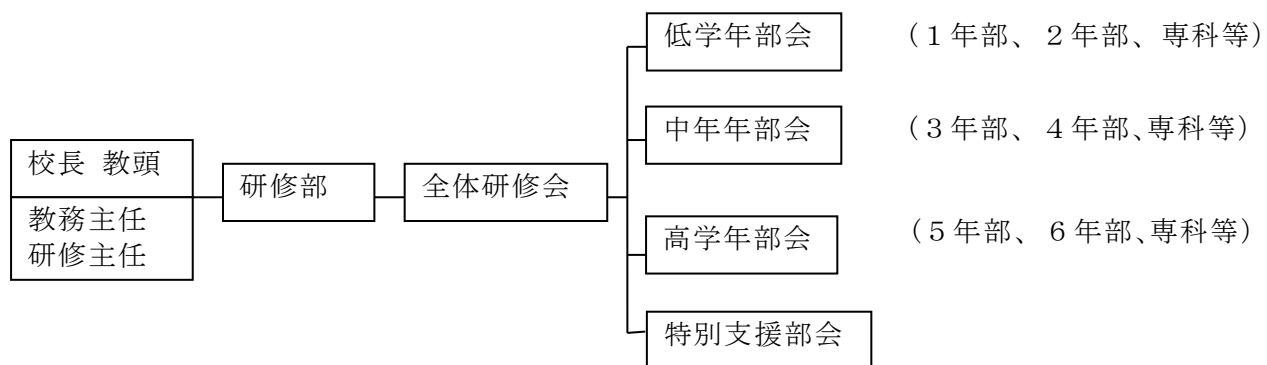
(3) 講師を招聘しての全体研究授業（3回）

- ・全職員が参観する研究授業
- ・ワークショップ型研究協議、教師相互評価による授業改善
- ・隣接学年での教材研究及び授業研究
- ・学習環境の整備・掲示物の工夫

(4) 地域・家庭と一体となった取組

- ・ノーテレビ・ノーゲームデーの実施（毎月15日）
- ・学校運営協議会委員の校内研修への参加
- ・地域公開人権教育参観日の実施
- ・いこいの日（毎月15日のノーメディアデーに、親子読書を推進）

7 研修組織



令和2年度 研修の予定

月	研 修 予 定
5月	○今年度の研修テーマの確認 ○年間研修予定 ○学力向上プランの作成
6月	○学年研修（題材・教材研究等）
7～8月	○各ブロック研修・学年研修・教材研究・指導案作成等 ○学力向上プランの見直し ○特別支援教育について ○第1回校内授業研究 指導案検討
9月	○第2回校内授業研究 指導案検討
10月	○第1回校内授業研究（中学年部 3年4組 沖中 彩夏 教諭） ワークショップ型研究協議
11月	○第2回校内研究授業（高学年部 6年3組 高野 賢治 教諭） ワークショップ型研究協議 ○第3回校内研究授業指導案検討
12月	○学力向上プランの見直し
1月	○第3回校内研究授業（低学年部 1年4組 小野 優希 教諭） ワークショップ型研究協議 ○研究集録について
2月	○研究集録の原稿作成 （各学年の今年度の課題と現状を把握し、来年度に備える。）
3月	○学力向上プランの作成 ○1年間のまとめ、来年度への課題の共有